

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200098		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 静岡駿河の家		
所在地	静岡県静岡市駿河区中野新田396		
自己評価作成日	平成22年8月17日	評価結果市町村受理日	平成22年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=229420

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 システムデザイン研究所		
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成22年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年齢の若い職員が多く、利用者の孫やひ孫のような付き合いであり、とてもアットホームである。また元気な職員が多く、明るい雰囲気、利用者の希望に沿って、共に釣りや買い物、ドライブなど定期的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡東名インター傍にありアクセスがよいが、騒音などではなく静かに時間が流れている事業所である。85歳以上が5名、75歳以上となると14名おり、実年齢はやや高い。ただし、表情や生活動作など(ADL)から受ける印象は大変若々しく映る利用者が多い。利用者の元気をさらに支援する一環として、動物園や海岸など戸外に出掛けることを増やしている。また、海岸などで拾った流木で造形品をつくるなど、職員は利用者と共に過ごす時間も大切に、心身ともに豊かであるよう努めている。さらに、ラジオ体操を近所の皆さんと一緒にするなど、事業所の外の方々と共に過ごす機会を増やすことにも尽力している。若い管理者の明朗さが職員の明るさを

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の理解を深めるために、ホーム独自のイベントを実施している。朝のラジオ体操は御近所の方々と共に行っている。	「地域に根付いた笑顔の絶えない夢のある我が家」という理念に基づき、一年を通して地域住民と交流できる行事を開催している。結果、近隣の皆さんに利用者の顔を覚えてもらえている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と御近所様との交流もあり月ごとのイベントでの地域の御参加も多々行っている。町内会にも加入している。	散歩の時間が立ち話でなくなってしまうこともあるほど、利用者と近所と方々とはなじみの関係ができているが、職員が地域活動に参加することはできていない。	職員も防災訓練や祭りなどの地域事業にボランティア参加することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通し、救急法や認知症に関する勉強会を行ったりと地域との交流を踏まえ行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行い、会議の中で議題を提案し次回それが行われているか再検討している。	包括、介護相談員、薬剤師、町内会長など毎回10名弱の参加がある。また、常に2～4名の近所の方々参加があり、地域と良好な関係を築きつつある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居や退去、その他手続きの相談等、連絡する際に近況報告は欠かさず行い、サービスの向上に努めている。	(生保の利用者がいるため)区役所とは3日に1度程度は連絡をとりあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束に関する研修を受けており、身体拘束ゼロ宣言に則り徹底している。	身体拘束排除の研修は年1回開催している(本部開催)。スピーチロックについても職員会議を利用して確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修もを受けており、利用者が興奮状態であっても心身的な拘束等をするのではなく、話をしたり、受けの対応を取り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月フロア会議を行いその中で勉強会を行い、職員の理解の場を作っている。また必要に応じて権利擁護を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、御家族の立場に出来るだけ近づき、相談・説明に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等、施設の問題点などは必ず外部者もふまえて話し合い検討している。	家族との関係において、その場の雰囲気を大切にしている。そのためか、目安箱はあるが意見書があったことはなく、直接話してもらっている。また、担当制になっているので、管理者に話しにくい内容は担当者に入っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やケアカンファレンスにて職員の意見を聞き共に検討、話し合いの場を設けている。	人事制度の変更があった際など必要に応じて個人面談をしている。また、管理者がオープンな関係づくりを旨としているためか、愚痴や不満も直接入る。さらに、就労後共に飲食をする機会も頻繁につくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部調査を年間に数度行い、職場環境の確認を行っている。また、地域ごとのエリア責任者を通し現場と本部との連携をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を設けており、レポートを通し職員の意識や能力を確認し、それに適した課題提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や、市で行う研修等を通しネットワークを構築、サービスについて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人と直接会って話をするよう心掛けています。そこで本音を聞いたり信頼関係を構築するよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と直接話しなるべく多くの情報を得るよう心掛けています。その中で信頼関係を築くよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	集めた情報を冷静に分析し、課題を明確にしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴から本人の得意分野を探し才能を発揮してもらったり、手伝い等してもらう事により役割を持ってもらい家族のように支え合う関係を築くようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に何か問題が生じたり、ちょっとした変化があった場合など、家族に連絡し喜び・悲しみ・共に考えたり、共に支え合っている。			
	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊等、柔軟に対応。それにより知人や家族と気兼ねなく会えたり、一緒に懐かしい場所に行く事が出来ている。		家族の来訪は半数以上(18名中)あるが、そのうちの約半分の家族が居室などでゆっくりしていく。時には職員が利用者の要望に応じて、なじみの場所に出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人一人の性格及び利用者同士の関係を把握しており、その上で利用者同士がトラブルなく良い関係を築けるように間に入ったり声掛けをしたりしてフォローしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や面会、手紙などで気軽に相談等出来るように対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、入居後も適時利用者や御家族から希望や意向等情報を収集し対応するよう努めている。	意思疎通が可能な利用者が大半なため、生活の中の発語を逃さないよう留意している。また。月1回、モニタリングシートに日々の内容を各担当がまとめ、プラン作成者に提出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャーなどから情報を集め把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で生活パターンを記録し分析・把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に御本人・御家族・職員と話し合いそれぞれの意見やアイデアをケアプランに反映させている。	ケアプランを3ヶ月に1度替えており、「いま、ここ」希望や意見、体調管理などに留意している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護詳細記録・申し送りノートに記入し、職員皆が確認し情報の共有を図り実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の関わりの中で、利用者の要望をくみ取り、突発的に釣りや図書館へ行った外食に出掛けたりと日々の業務に囚われずに対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で催される行事や祭事に積極的に参加、また御家族や御近所の方々のとの交流の場も提供。民生委員や消防との連携も図り利用者の意向に出来るだけ対応出来るよう心掛けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じ、かかりつけ医、または提携医に、定期的または必要に応じ受診している。	往診はない。ほぼ全員が受診しており、支援の大半は職員がしている。医療記録は随時個人カルテに記載し、情報の共有化と緊急対応時の標準化に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアマネージャーが看護師資格を持っており看護の視点からも判断が出来、また看護師のネットワークもあり地域の看護との連携も取れている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師資格のあるケアマネージャーを中心に看護の視点で病院との連携を図り、情報の共有も行われている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と話し合いの場を持ち事業所で出来る事を説明し、御家族の意向を伺うと共に、老人福祉施設や療養型病棟への移動が必要な場合は共に検討し探していくチーム体制をとっている。	契約時に「緊急時の対応および重度化・看取りについての指針」に基づき、家族に説明し、理解してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い研修の場をつくり実践力の強化を図っている。また消防訓練の中でも毎回救急法や簡易担架による避難、三角巾による応急手当等行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で地域住民の方々と検討し協力を求めたり、避難訓練を通し様々な状況を想定し実践、検討している。	メニュー（消火器、三角巾など）によって判断するらしく、近所の皆さんの参加には毎回幅がある（参加人数が定着していない）。	地域住民の参加人数（顔ぶれ）が定着する工夫について検討されることを期待する。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応について職員会議や日々のケアの中で職員の教育に取り組んでいる。また職員の個人評価表を作成し、利用者に配慮した対応が出来ているか検証している。	管理者は「慣れによる過度の親しさ」を戒めていきたいと考えており、職員本位にならないよう、姿勢や声掛けについて定期的に注意を促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう、本人の状態に合わせて働きかけや説明を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意見や要望を確認し、可能な限り利用者のペースに合わせて、その日の生活支援が行えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望も伺い毎食手作りで提供。栄養と好みに気を配り利用者と料理を行っている。2か月に一度本部より行事食も届き楽しみにされている方もいる。	茶碗と箸、湯飲みは自宅からなじみのものを持ち込んでいる。バランスのよいメニュー構成で、彩りもあり見た目にも楽しい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を必要に応じ記録し毎日確認している。自力摂取が困難な方には介助・見守りし状況に合わせて対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に全ての利用者に対し口腔ケアを促し、自力でのケアが出来ない方は介助し行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に行える方はそれぞれのペースで、行えない方は排泄表を活かし、その都度様子を見て援助している。	水分摂取量ならびに排泄チェック表(特に排便を中心に)をつけている。排便がスムーズになるようにヨーグルトはほぼ毎日摂っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分は記録し排泄を考慮して支援している。また、排泄係を設置し毎週排泄の確認をし適時かかりつけ医に報告し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間は決まってはいるが、利用者の希望・その日の状況で適時利用出来るよう努めている。	週4日、夕方18時から朝の9時以外の時間帯なら自由に時間を選ぶことができる。清潔保持ということだけでなく、入浴を通じ介助者と会話を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重し、その時々状況に応じて休息や安眠への支援を努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方された薬は薬剤師に確認し記録し確認している。また薬係を設置し薬係の指示のもと全ての職員が把握できるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味を考慮し、適時ドライブや、釣り、外食等支援している。ホームでも花札やカラオケなど希望に合わせて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	釣りや図書館、入浴施設や外食等、家族や地域の方と協力し支援出来るよう努力工夫している。	食材の買い物も含めほぼ毎日散歩している。また、外出できない状態の利用者は庭や畑の水撒きなどをし、戸外の空気を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まとまったお金はホーム内金庫で保管しているが、個々の能力や希望に応じてお小遣い程度のお金を所持している方もいる。欲しいもの等ある場合はその都度言ってもらい買い物に同行したり送迎を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じた、個々のADLに応じ電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境や季節感を感じてもらおうよう、共同空間には季節に応じ、利用者や職員の作品や写真を飾っている。また窓やカーテンをその日の天気や臨機応変に開け閉めし、外の状況も感じられるようにしている。	季節毎の行事がわかるような掲示物が飾られ、明るい雰囲気がある。また、つかまり立ちや手すりがわりとなるものを配置するなどの配慮もある。		今後重度化に向かうことを考慮し、温度計・湿度計の設置をお願いしたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食事を食べるテーブルのほかにテレビの前にソファを配置しており、希望に応じて対応をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの好みの物や、大切にされていた物、使いたれた物を持って来て頂き、また、職員からも整理や情報提供も行い、心休まる居室作りを目指し努力している。	使い慣れた家具やテレビなどを持ち込み、自宅の延長戦上の暮らし向きが覗える。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントや日々の生活でのコミュニケーションの中で利用者それぞれのADLや好みなどを理解し、そこから何が必要か、何が出来るのか、何が楽しみかを考え自立した生活を目指し日々検討している。			